

梅が瀬研修会

「タゴガエル」観察会に参加して

伊藤太一(市原市)

日時：2009年6月7日(日) 場所：市原市 梅が瀬溪谷

参加者：15名(内 子ども2名) 担当指導員：盛一昭代

前日が雨で、本日もからっと快晴というわけでもなく雨模様の天気を心配しながら集合場所の養老溪谷駅に向かいました。私は初めての参加ですが、他の人たちはもう何回も参加したような感じで「このような雨模様の方がタゴガエルはよく見つかる」との声を耳にしてそんなもんかと天候の悪さは忘れることにしました。

千葉県立中央博物館の大木淳一先生から「タゴガエル」の生態について説明の後、梅ヶ瀬溪谷に向かうことになりました。溪谷の入り口にある池で「モリアオガエル」を見つけました。以前卵が木の枝先に産み付けられているのをみたことがありましたが、親をみたのは初めてです。

途中川べりで昼食をとって、本日の目的の生息場所に到着しました。タゴガエルのマンションと表現していましたが、浸みだし水が「ぽとぽと」と流れ落ちる川の岩肌に無数の穴が空いていました。その中で産卵し、孵化したオタマジヤクシは餌を食べないで、蓄えられた卵黄の栄養のみで穴のなかで成長し変態し、その後、山のなかにはいっていき産卵時期に再びここに来るそうです。これから探すのは今年の春に変態した幼体で非常に小さい(1cm以下：写真参照一円玉と比較)ので、探すのに大変でした。岩肌に張り付いて目を凝らして見つけようとするのですがなかなか見つかりません。以前参加した方は要領がわかっているのか「見つけた」と、早速声がかかりみんなでその場所に移動して観察しました。保護色であるためか周囲との識別が難しく目を凝らすだけでは駄目で、枯れ枝で周りを突いてとびはねたところを見つける方法で、何とか3匹ほどみつけましたが苦労しました。大木先生からオスとメスの見分け方(だきイボの有無)、よく似ているヤマアカガエルとの見分け方(喉の部分に細かい黒い模様)など説明を受けましたが、なかなか難しいと感じました。

タゴガエルの不思議な生態の一端をちょっとのぞき見した程度でしたが、すべて初めて見聞きすることでしたので大変有意義な一日となりました。



養老溪谷入り口で観察したモリアオガエル



タゴガエルの幼体